

いま!この一冊!

いっさつ

『せんそうがおわるまで、あと2分』

著/チャック・ホール スティン 訳/長友恵子



ごうビラしゅっぺん
合同出版

E/3/

同じ日に同じ村で生まれたジュールとジム。ジュールより2分早く生まれたジムはどんなときもジュールより速くて強く、ジュールはいつも取り残されていました。

そんな二人は大きく成長し、第一次世界大戦がはじまると、兵隊に行くことに。しかし戦場は、想像していたような偉大な場所ではなく、泥まみれでみじめな場所でした。

1918年の11月11日11時、戦争をおわらせることが決まりました。しかし、そのときもジュールとジムは戦場へ行くように命じられ…。

本当にあったお話から着想を得て作られた絵本です。戦争について家族で考えたい方におすすめです。



本はこのころの栄養剤。
ステキな本との出会いはキミのこころをキラキラと輝かせるよー!
このブックリストがキラキラな出会いの手助けとなりますよー!

わしがわ

としょかん 図書館おすすめブックリスト



キラ

キミのこころに☆めきを...

しょうがくせい
小学生



『ふたりのラプソディ』

著/北ふうこ



絵/トミイマサコ

ぶんけんしゅっぺん
文研出版

93/キ

小学6年生の坂本あずさの父は、売れない芸人、大阪ゴン太。そんな父に愛想をつかしたお母さんは出ていってしまい、現在、ふたりで暮らしている。

クラスメイトはしっかりと将来について考えているが、あずさにはそんな余裕がない。アルバイトで生活を続けるゴン太を支えるために必死だからだ。そんなとき、あずさを捨てたはずのお母さんと会えることになり……。

大阪弁が気持ちよく、最後まで一気に読めます。将来、どうしようかと考えている人の背中をかるく押してくれる本です。

ねんなつごう
2023年夏号

編集・発行：五反田図書館

1・2ねんせい〜

『調べてびっくり！テントウムシ』 少年写真新聞社 48.6//
ゲッチョ先生のテントウムシコレクション』 文・絵/盛口 満



テントウムシの星はいくつ？からはじまり、くらしや成長まで、テントウムシについてくわしく紹介されています。写真や絵がたくさんあるので、テントウムシを調べるのに役立ちます。

3・4ねんせい〜

『真昼のユウレイたち』 借成社 93/1
作/岩瀬成子 絵/芦野公平



ユウレイに出会った子どもたちの作品集がこちらです。子どもたちは、ユウレイにとまどいながらも、その存在を自然に受け入れていき、その姿はなんとなくユーモラスでたのしいものです。ユウレイ好きの人、見えない世界を信じている人におすすめ！

5・6ねんせい〜

『夏に、ネコをさがして』 徳間書店 93/二
作/西田俊也



7月のおわり、6年生の佳斗は、亡くなった祖母の家に引っ越してきた。すると、祖母がかわいがっていたネコがいなくなってしまふ。佳斗はネコを探そうちに、新たな友だちと出会い、祖母の死という悲しみから立ち直っていく…。少年の心の成長を描いたものがたり物語です。

『こんにちは、アンリくん』 徳間書店 93/ウ
文/伊 ャット・ウァシュウ 文・絵/ア・ラニア・カール 訳/松井り子



フランスに住んでいるアンリくんには、かぞくがたくさんいます。アンリくんのネコのミッシェルくんにも、たくさんのかぞくがいます。これは、そんな大かぞくでおこる3つのお話がひとつにまとまった物語です。きれいな絵が全ページに入って読みやすく、ひとりて本を読みはじめる低学年の小学生におすすめです。

『やさしくわかるカーボンニュートラル』 技術評論社 51.9//
脱炭素社会をめざすために知っておきたいこと
著/小野崎 正樹 絵/小野崎 理香



最近、よく聞くようになった「カーボンニュートラル」という言葉。なんだかよくわからないという小学生にはこの本がおすすめです。家族など親しい大人といっしょに読めれば、身近な問題となっている地球の温暖化についてみんなで考えることができますよ。

『かげふみ』 光村図書 93/ウ
作/朽木 祥 絵/網中いづる



夏休み、小学5年生の拓海は、広島に住む祖母の家にやってきた。雨の日に近所の図書室を訪れたとき、ひとりで本を読む三つあみの少女と出会う。雨の日にしか来ないその不思議な少女は、影を見つける話を探しているという。なぜそんな本を探しているのでしょうか、このお話を通じて、戦争や原爆について学ぶことができます。

『はなとりかえっこ』 借成社 93/カ
さく/角野 栄子 元/さとうあや



アラさんのうちのには、花がたくさんさいています。でも、アラさんは、このころになると、くしゃみが出続ける病気にかかってしまいます。今日もくしゃみをしていたら、ブタさんがやってきて鼻をとりかえっこしようとして提案してきます。そしてふたりは鼻を交換してみると…。

『ふしぎ草子』 小学館 93/ト
作/富安 陽子 絵/山村 浩二



ぞくぞくとしたり、ざあざあとしたり、あっとおどろいてしまうような短いお話がひとつにまとまったふしぎな物語です。古い音楽室から聞こえてくるピアノの音のなぞや、サッカーの朝練に出かけたら、けたたボールが霧の中に消えるなど、本を読むのが苦手な小学生でも気軽に手に取りたいくなります。

『ドアのむこうの国へのパスポート』 岩波書店 93/ト
作/トウカ・ドラフ&リナ 財・加川外 絵/リナ・ファース 訳/西村由美



小学生のラウレンゾーは担任の先生が読んでくれた本の作家の家に行くことになる。そこには、なぜめいたドアがあって、ドアのむこうには、特別なパスポートを持った人しか入れない。クラスメイトたちといっしょにパスポートやビザの申請を行っていくが…。